

最高学部

この 1 年を振り返って

最高学部部長 高橋和也

2024 年度、最高学部では「共生共創フォーラム」等を中心に外部講師の方から学ぶ機会も多く設け、またポーランド研修旅行はじめ、海外との交流も活発に行い、学生の学びの環境を充実させることを進めてきました。また、これまで高等科修了生のみを開いてきた進学試験を外部にも広げ、2025 年度入学試験では 2 名の合格者が出ました。

1 学期の様子

4 月 10 日始業式。進学者 14 名を加えて、2024 年度は 68 名で始まりました。11 日には、1 年生は学内で修養会を行いました。4 月 15 日、開講記念講演を行い、澤登早苗先生より「私たちの食べものは大丈夫？～有機農業の実践・研究・教育からみえてきた『食』『農』『環境』の現状と未来～」とのタイトルでご講演いただき、2024 年度の講義が始まりました。今年度より講義時間をコロナ前の 100 分に戻しました。4 月 28(日)は、1 年生対象に今年度も飯能・名栗フィールド活動を行いました。かつて男子部高等科生が植林・育林を行ってきた埼玉県飯能市の自由学園名栗植林地と上名栗にある古民家を訪れました。

今年度新規に作成した最高学部紹介冊子が完成。連休後より配布を始めました。

5 月 11 日から 1 泊 2 日で「那須農場での学びと持続可能な農業・地域づくり」の受講生が那須農場へ行き、田んぼでの活動を行いました。18 日、「広報チャンネル 730」を開催。1 年生が新生活の感想を語りました。5 月 21 日、「日本の里山・里川・里海と地域デザイン」の実習が三浦市の小網代で行われました。森林・湿地・干拓・海までが連続して残されている関東では唯一のフィールドで充実した学びとなりました。この実習では長瀬、秩父エリアでの実習も行っています。

6 月 2 日、全国水環境マップ実行委員会主催「身近な水環境の全国一斉調査」に参加しました。自由学園は 2004 年の第 1 回以降、21 年連続での参加。毎年、調査報告書では「継続調査参加団体(皆勤賞)」として学校名を挙げていただいています。今回の調査は、最高学部の水文・気象観測室の学生 5 名と、高等部の川管理グループの生徒 2 名、教員 2 名の計 9 名で実施しました。最高学部 4 年生の

2 名は高等科 1 年の時から参加しているベテランです。

2024 年度も水文・気象観測室の学生たちは自由学園での観測と共に名栗、海山、那須農場での地道な観測活動に取り組みました。

6 月 2 日より 16 日まで、学部 1 年から 3 年の計 8 名が参加しポーランド研修旅行が行われました。前半はポメラニア大学に滞在し交流、その後、アウシュヴィッツ博物館、ワルシャワ蜂起博物館、第 2 次世界大戦博物館などを見学しました。ポーランド、ウクライナほか様々な国からの留学生との交流もあり、大きな刺激を受ける旅行となりました。第 2 次世界大戦博物館では「八紘一宇」の文字に驚き、ナチスと共に連合国の敵国であった日本を意識したとの学生の感想もありました。8 日の学部保護者会では、ポーランドから中継で学生たちが様子を報告しました。

6 月 8 日から 2 日間、東久留米市役所市民プラザで第 28 回東久留米市環境フェスティバルが開催され、今年も生活経営研究実習の草本・灌木グループなどが出展しました。フェスティバルのポスターは 2 年の栗田ちひろさんがデザインしました。

6 月 15 日、16 日に那須農場で、自主活動「RO 農法への挑戦」グループによるライ麦の踏み倒しとトウモロコシ、サツマイモ、かぼちゃ、綿等の植え付けが行われました。今回は最高学部学生 6 名、高等部生徒 12 名、教員 2 名の 20 名が参加しました。この取り組みは高等部の「探求」から出発したのですが、高を繋ぐ自主的・探求的学びとして 2024 年度を通じて熱心に行われました。

6 月 26 日、第 1 回共生共創フォーラムが開催され、NPO 法人共働学舎の福澤和雄理事長、NPO 法人日本ブラインドサッカー協会専務理事の松崎英吾さん、日本代表チームの主務で最高学部卒業生の高橋めぐみさんのお話

を伺いました。「生き方を揺り動かされるお話だった」「今この年齢で話が聞けてよかった」といった感想がありました。共生共創プログラムは、学生と実社会を繋ぎ、社会の現場での実践的な学びを推進することを目指すもので、企業やNPOなど全国17か所の協力拠点での最長半年の活動を可能とするプログラムです。2024年度は研究拠点を引き受けてくださっている方々を講師に招き、その取り組みに学びました。

6月27日、東久留米市立生涯学習センターまろにえホールで、東久留米市シルバー人材センターの総会が開かれ、総会後のプログラムとして最高学部から弦楽オーケストラ・コーラス・独唱を披露しました。

最高学部は2025年度入学生から外部募集を始めています。7月、8月にはオンライン学部説明会を実施し、学部長が寮生活を行っているキリスト教高校を訪問しました。

8月1日より21日まで、ネパールワークキャンプが行われました。過去の植林地すべての場所での樹木調査を完了しました。また、長年ともに活動してきた活動地域の学校での授業や記念植樹も行いました。1990年より始まったネパールワークキャンプは現地の体制変化に伴い今年度をもって終了となり、2025年度よりアジア協会との連携のもと新体制での取り組みが始まります。

8月24日に東久留米市主催の「向山緑地若返り事業シンポジウム」が東久留米市役所で開催され、奈良忠寿が講演しました。また、生活経営研究実習・草本・灌木グループならびに領域横断研究：フィールドサイエンスゼミが向山緑地を対象に調査・研究を行なった成果について卒業生が発表しました。9月7日、リベラルアーツ学会の第7回年次大会を開催。吉川慎平、星住リベカ氏と両角つづり氏の共同、鈴木康平の3名が登壇しました。9月14日、キャリア支援中間検討会、18日、2年課程2年修養会が行われました。

2 学期の様子

9月19日、2学期始業式。24日から、オレロップ体育アカデミー卒業生イーダとオリバーの指導のもと、体操の集中練習を開始しました。9月28日、学部2年は昨年に引き続き飯能・名栗フィールド活動を行いました。

10月1日、第2回共生共創フォーラムを開催。「元気に繋がる地域づくり」のテーマのもと、株式会社CNC代表取締役の矢田明子氏と株式会社HITOTOWA代表取締役・

最高学部講師の荒昌史氏を講師にお迎えしました。10月25日、生活経営研究実習・農芸グループが、幼児生活団幼稚園6歳組の園児たちに、大根の種まきと人参の種まきの指導をしました。

4番目の学部紹介資料『最高学部の後期課程・ゼミナールの紹介』冊子を刊行。冊子をもとにZoomで教職員対象の学部説明会を3回行いました。

10月26日、キャリア支援室主催で学部3年生を対象とした卒業生との対話会と学部生ピッチ大会を行いました。10月28日から11月1日までポメラニアン大学（ポーランド）からMalgorzata 教授が来校。特別講義を実施しました。

11月3日、学部棟で「学部祭」を実施しました。11月6日は、終日授業を休講にして、3年生による公開合同ゼミを学部内で開催。11月9日には記念講堂で、ポーランド研修旅行とネパールワークキャンプの合同報告会を行いました。学生・教員のほか、最高学部保護者・高等部生の参加もありました。11月13日から、毎週水曜日に高等部1年生が最高学部食堂での昼食に参加。高等部と学部のあたたかい交流の時となりました。11月19日から21日まで定例の能登支援に学生3人が参加。初めて珠洲市に入りました。

11月21日から28日までポーランド、ポメラニアン大学の学生6名と教員2名の計8名が来校。学生6名はしのめ寮と光風寮に滞在し、学部の講義に参加。学部生と交流しました。JIYU1123では学部「那須農場の学びと持続可能な農業・地域づくり」グループが那須農場の水田で収穫した減農薬米を頒布しました。また100周年募金委員会主催「自由学園をもっと知る、秋の学び舎」と題したリレー講義が行われ、最高学部からは学部長高橋・小田幸子・吉川慎平の3名が登壇しました。

12月4日から3日間東京ビッグサイトで開催されたエコプロ2024に3回目となる出展。「持続可能な次の100年を目指したイノベーション」をメインテーマに、①教育用ミニIoT水田の開発、②マイクロ・アクアポニックスの実践、③気象観測でキャンパス丸ごと実験室化、④自由学園のスクールシンボル選定、⑤環境再生型有機農業への挑戦、についてそれぞれ紹介しました。

12月3日から6日まで2年生が京都と九州に分かれて前期課程修了研修旅行を行いました。

3 学期の様子

1月10日始業式、新年言志を全体で聞き合いました。
1月27日から2月3日まで学部講義を高等科生に公開。高等部1・2年生延べ50人ほどの参加がありました。学部生にとっても教員にとってもよい刺激となりました。

2月17日、第1回 Jiyugakuen English Cup (英語スピーチコンテスト)を開催しました。14名の学部生が参加し、高2生徒・先生方も聞きに来てくれました。学園長賞(最優秀賞)は4年の荻原志志郎くん、学部長賞は3年の松島希実さん、国際センター賞は3年の高田和実さんでした。2月19日に第3回共生共創フォーラム「食と農で拓く未来」が開催されました。パタゴニア日本支社リジェネラティブオーガニックリサーチ担当木村純平氏、奈良山園15代目農園主 野崎林太郎氏をお迎えしました。

2月22日に卒業勉強・卒業研究報告会が行われました。社会運動の在り方を扱うものからダーニングやファッションなどテーマは多岐にわたり、各人それぞれの問題意識が深められた内容でした。2月25日～27日、能登支援が輪島市と志賀町で行われました。2月28日、1・2年生の実習報告会を開催しました。

3月8日、満開の梅が香る中、第103回卒業式が行われ、2年課程2年生2名、4年課程4年生12名の学生が自由学園を巣立っていきました。高等部から入学した人でも7年、長い人では幼稚園入園以来、17年、19年の学園生活となりました。それぞれの歩みに思いをはせ、希望をもって送り出す1日となりました。

3月11日、最高学部の2024年度修業式が行われました。修業式では今年度で退職される先生方のスピーチと花束贈呈も行われました。今年度の学びを振り返り、最高学部の教育に長年にわたり力を注いでくださった先生方からの熱いメッセージを受け止め、来年度への決意を新たにする時間となりました。

春休みの3月22日、名栗植林地に、慶應義塾の福澤育林友の会の会員17名をお迎え、見学会が開催されました。自由学園海山植林地の開設以来多大なるご助力をいただいている速水林業の速水亨様のご紹介によるものでした。

2024年度には実習棟が解体され、これに伴い学園新聞編集室、生活経営研究実習等の部屋が旧ロッカー室および理科室に移動しました。

入試結果

2025年度の入学試験はR方式6名、S方式7名、総合型9名の受験があり、このうち20名が入学許可となりました。2025年度は2024年度より4名多い72名でのスタートとなります。

最高学部は創設以来、自由学園高等科修了を入学要件としてきましたが、2024年度入学生から、専願を要件としない「総合型」入学試験を実施しました。受験者9名のうち2名が初めての自由学園高等部以外の生徒でした。この2人を4月に新入生として迎えることができることはうれしいことです。多様な人が共に学ぶ学校づくりを今後も推進していきたいと思っています。

教員の研究発表など

6月22日から2日間、名古屋市の名城大学天白キャンパスにて、開催された土木学会の第44回土木史研究発表会で、吉川慎平が「東武鉄道・北千住駅周辺に残存するレンガ積み橋台遺構と荒川放水路建設によるルート変更」と題して口頭発表しました。9月には同学会の全国大会でも「高度化した水循環機構下にある霞ヶ浦流入河川・桜川流域における電気伝導率を指標とした追跡・拡大調査」と題する発表を行っています。

9月13日・14日に東京農業大学で開催された日本緑化工学会第55回大会で、吉川・小田がそれぞれポスター発表しました。吉川の演題は「自治体発信のナガミヒナゲシに関する注意喚起情報の分析と傾向」で、小田の演題は「ネパール国カブレ郡での地域連携による森づくりの実践」です。

10月23日には東久留米市の市民大学が学園キャンパスで行われました。田口玄一郎が「自由学園の教育と『京郡学派』の思想～戦後『夏期学校』にみる生涯学習の展開～」という演題で講演しました。来場者はおおよそ合計50名でした。

3月2日に茨城県鹿行生涯学習センター(レイクエコー)を会場に開催された茨城大学地球・地域環境共創機構水圏環境フィールドステーション主催の「公開シンポジウム霞ヶ浦流域研究2025」で吉川が「安価な市販『塩分計』の感潮河川・汽水域調査への活用に関する簡易的検討」と題してポスター発表しました。

3月17日から19日に札幌市に位置する北海道大学札幌キャンパスで開催された第59回日本水環境学会年会で、吉川がポスター発表しました。発表題目は「海外旅行

ガイドブックにおける諸外国の飲料水情報に注目した網羅的調査」です。(以上詳細は環境文化創造センター104ページ参照)